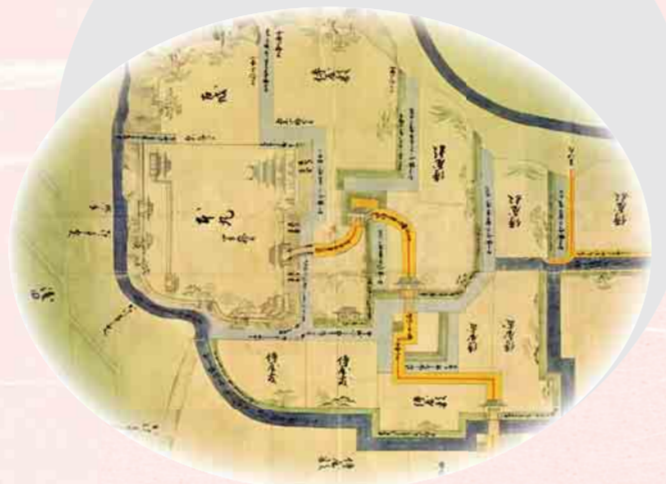


真田の里 上州沼田



和暦	西暦	城主(藩主)	沼田城と真田氏関係の事項	真田氏と時代の動き
天文	元 1532	沼田顯泰	このころ、沼田氏12代万鬼齋顯泰、沼田城(蔵内城)を築城し、幕岩城から移る。	
永禄	三 1560	上杉氏時代	上杉謙信の関東進出により、沼田城は上杉氏に帰属する。鍛冶町・本町・材木町を劃立てる。	
	九 1566	沼田朝憲	顯泰、家督を三男弥七郎朝憲に譲り、天神城へ移る。	
	十二 1569	上杉氏時代	沼田氏内紛激化、顯泰・平八郎景義は会津へ落ち延びる。	
天正	元 1573			武田信玄没
	二 1574			真田幸隆没
	三 1575			長篠の戦いで武田氏大敗し、真田信綱・昌輝戦死、昌幸が真田家家督継承
六 1578	北条氏時代	上杉氏の内紛に乘じ、沼田城は北条氏邦の支配下に入る。	上杉謙信没、御館の乱が起こり、上杉氏混乱	
八 1580	真田氏時代	武田方の真田昌幸が沼田城を攻略、北条氏の城代藤田信吉を降し、沼田城は武田氏の支配下となる。		
九 1581		かつての沼田城主沼田氏の末裔平八郎景義が沼田城奪回のため挙兵するが、真田昌幸の謀略により伯父の金子美濃守らに謀殺される。 沼田城代海野能登守輝幸父子、謀反の疑いをかけられ、昌幸の命で昌幸の弟の真田信尹に攻められ自刃する。		
十 1582	織田氏時代 真田氏時代	武田氏滅亡により織田信長の將に沼田城を明け渡す 本能寺の変により沼田城は再び昌幸支配下となる。	天目山で武田勝頼自刃 本能寺の変、織田信長没	
十七 1589	北条氏時代	豊臣秀吉の裁定により、沼田城は北条氏政の所領となる。 徳川家康、本多忠勝の娘小松姫を養女とし、昌幸の長男信幸に嫁がせる。		
十八 1590	真田信幸(之)	北条氏沼田城代猪俣邦憲が真田領の名胡桃城を攻略したことを口実に、秀吉による小田原征伐が行われ、北条氏滅亡。 沼田城、秀吉から改めて昌幸に与えられ、昌幸は長男信幸を沼田城2万7千石の城主に据える。 信幸、沼田領の検地を行う。賈高制(下河田検地帳) 荒町・蘆匠町・小人町を劃立てる。		
十九 1591		信幸、沼田城に間口10間興行き9間、五重の天守を造営する。		
慶長	三 1597			豊臣秀吉没
	三 1598			
	五 1600		関ヶ原の戦いで信幸は東軍徳川家康方に、昌幸・信繁(幸村)は西軍石田三成方に分かれて戦い、東軍の勝利に終わる。 信幸は父昌幸の上田領と加増も合わせ、9万5千石の大大名となり、名を信之と改める。	
八 1603			徳川家康、征夷大將軍に任ぜられる	
十 1605			徳川秀忠、2代將軍就任	
十六 1611			昌幸没	
十九 1614			大坂冬の陣が勃発、信之病氣のため長男信吉・次男信政が陣出し、信繁(幸村)が加わった大坂方と戦う。 大坂夏の陣が勃発、信之の長男信吉らが陣出し信繁(幸村)が加わった大坂方と戦う。	信繁(幸村)戦死 大坂城落城で豊臣秀頼自刃し、豊臣氏滅亡
二十 1615				
元和	二 1616	真田信吉	坊新町を劃立てる。 信之、上田城に移り、沼田城主を信吉に譲る。 信之正室(小松姫)、江戸からの帰途、武州鴻巣で死去。	
	六 1620			信之、上田から松代へ移封
	八 1622			徳川家光、3代將軍就任
	九 1623			

寛永	四 1627	真田信吉	信吉、幕府老中酒井雅楽頭忠世の娘と婚姻。 川場用水完成。	
	五 1628		信吉、真田家と領内の安泰を祈り、城鐘を鋳造。	
十一	1634		信吉、江戸にて死去。享年42歳。	
	十二 1635	真田熊之助	信吉の子、熊之助、4歳で3代城主となる。	
十五 1638			熊之助、江戸にて死去。享年7歳。	
十六	1639	真田信政	熊之助の叔父(信吉の弟)、信政が4代城主となる。	
	二十 1643		信政、このころ領内の検地を行う。(賈高制) 馬場町が劃立てられる。	
正保	二 1645		信政、このころ幕府の命により城絵図を提出。 柴町が劃立てられる。	
	四 1647		原新町が劃立てられる。	
慶安	四 1651			徳川家綱、4代將軍就任
承応	元 1652		信政、領内の開発を進め、このころ4か村用水等を開削。	
	二 1653		小川城在城の信吉の子信利、山内忠豊の娘と婚姻。	
明暦	二 1656	真田信利	信之、松代藩主を信政に譲り、信利が5代城主となる。	
	三 1657			明暦の大火で江戸城天守消失。関東で五重の天守は沼田城のみとなる
万治	元 1658		信利、松代藩主継承を幕府老中酒井忠清を後ろ盾に信政の子の幸道と争う。	信政没、享年62歳 信政の子、幸道が松代3代藩主となる 信之没、享年93歳
	三 1663			
寛文	四 1664		信利、常楽院に観音堂建立、千手観世音菩薩坐像を寄進。 信利、沼田城の天守を修復(本丸の地形(盛土))。 信利、三光院に石灯籠等を寄進。 この頃、岡谷・戸神・町田用水等を完成させ、総検地で表高3万石(賈高制)から14万6千石(石高制)とする。	
	七 1667		妙光寺を建立する。	
延宝	八 1680			徳川家綱吉、5代將軍就任 大老酒井忠清失脚
	天和	元 1681	江戸両国橋用材伐りだし遅延と失政を幕府に咎められ、信利閑門・改易。信利は出羽山形藩奥平氏へ、長男信吉は播磨赤穂藩淺野氏へお預けとなる。 幕府の命により沼田城は全て破却され、堀も埋められる。	
二 1682	(代官)			

沼田藩・真田氏藩主一覧

藩主名	受領名・官名	生没年月日	諡号	藩主就任・退任年月日	幕府役職名
(1) 真田信幸(信之)	伊豆守	永禄9~万治1.10.17	大鋒院	天正18.8.25~元和2	
(2) 真田信吉	河内守	文禄2~寛永11.11.28	天桂院	元和2~寛永11.11.28	
(3) 真田熊之助		寛永9.5~15.11.6	一陽院	寛永12.12.5~15.11.6	
(4) 真田信政	大内記	慶長2.11~明暦4.2.5	円陽院	寛永16.7.25~明暦2.8	
(5) 真田信利	伊賀守	寛永12~貞享5.1.16	春林院	明暦2.9~天和1.11.22	大坂加番

沼田における真田一族の興亡

後北条氏との沼田城争奪時代

天正8年(1580)6月、真田昌幸は武田勝頼の先兵として北条勢を駆逐し沼田城へ入る。
翌9年3月、沼田平八郎景義は父顯泰が築いた沼田城奪還のため来攻したが、昌幸の策に乗った金子美濃守に欺かれ、城内で謀殺されてしまう。
天正10年(1582)3月、織田信長と徳川家康の連合軍に攻められた勝頼が天目山で自刃したため、昌幸は織田方の武將・滝川儀太夫に沼田城を明け渡したが、同年6月信長が本能寺で明智光秀に討たれたので再び沼田城へ入り叔父矢沢頼綱を城代に据えた。
北条氏は、西上州の戦略拠点であった沼田城を奪取するため大軍をもって来攻した。
この攻防戦は7年間続いたが、城代頼綱の奮戦により北条氏は沼田城を攻略することができなかった。
そこで北条氏は天下統一を目前にした豊臣秀吉に仲介を請い、裁定により沼田城は北条領とされ、天正17年(1589)7月、またもや昌幸は沼田城を明け渡した。
しかし同年10月、北条氏の城代猪俣邦憲は、天正15年(1587)に秀吉が出した大名間の私戦を禁じた「関東惣無事」を無視して利根川の対岸の真田領・名胡桃城を不法に攻略したので、秀吉はこれを口実に北条征伐を行い小田原城を攻め落とした。
天正18年(1590)、昌幸は秀吉から改めて沼田城を与えられた。名実共に沼田領2万7千石の支配者となった昌幸は、長男信幸を初代城主に据えた。

沼田藩・真田家五代

信幸は長い戦乱に疲弊の極みにあった領内の復興につとめ、年貢の減免、水利の開削、田畑の開拓、町割の改修等を行い今日における城下町沼田の基礎を築いた。
そして、乱世において真田家の運命を託せる人物として徳川家康を選び、父昌幸・弟信繁(幸村)と敵味方に分かれてまで忠勤を尽くし真田家の命脈を保ち、名も信幸から信之に改めた。
元和2年(1616)に信之は沼田城主を信吉とし上田へ移ったが、6年後には幕命により松代へ移封となった。2代城主信吉は父信之の偉業をよく引き継ぎ領内の拡充に努めたが、寛永11年(1634)11月に江戸で急死してしまった。
翌年松代から信之が来てわずか4歳の熊之助を3代城主に据えたが、3年後に江戸で死去してしまった。
寛永16年(1639)、再び信之が来て信政を4代城主にした。信政は用水工事を行い、田畑を開拓し領内をさらに開発した。
明暦2年(1656)、信之が91歳で隠居したため信政は松代城主を継ぐことになり、翌年7月有力な家臣団を引き連れ沼田を去った。
5代城主を継いだ信利は拡大検地を行い表高3万石を14万石に拡大し過酷な年貢を課し領民を苦しめた。
延宝8年(1680)、信利の強力な後援者であった大老酒井忠清が5代將軍推挙の件で失脚すると、幕府は天和元年(1681)11月、多年の悪政と江戸両国橋架替用材調達不足を理由に沼田藩を改易とし、信利は山形藩へお預けとなった。
こうして沼田藩の真田家による統治は、91年間で幕を閉じた。

沼田市へのアクセス

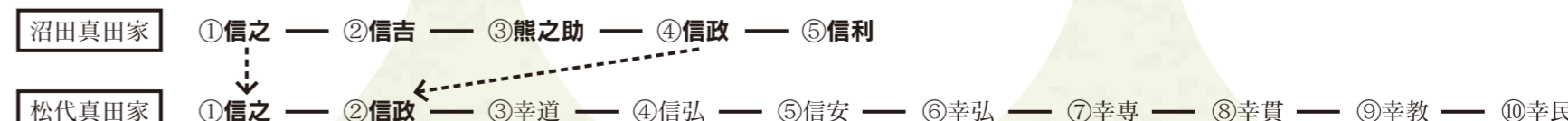
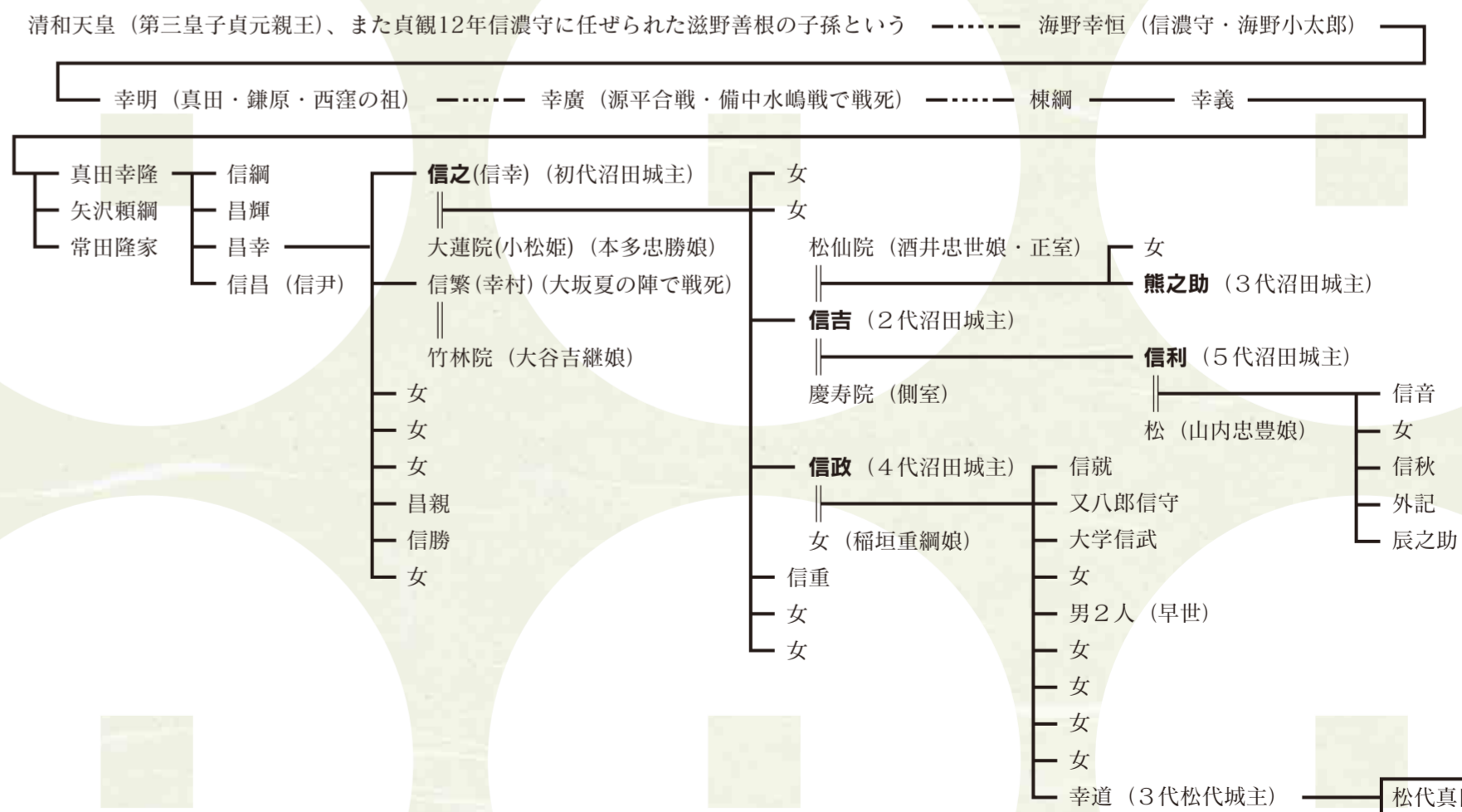


練馬IC	関越自動車道	沼田IC	車10分
海老名JCT	圏央道・関越道	沼田IC	2時間
東京駅	上越新幹線	上毛高原駅	25分
上野駅	JR高崎線・上越線	沼田駅	2時間40分
		沼田駅	関越交通バス3分 タクシー3分 徒歩約15~18分

お問い合わせ / 沼田市観光案内所 TEL 0278-25-8555
沼田市観光交流課 TEL 0278-23-2111
上州沼田 真田丸展 TEL 0570-00-6667
(2016年3月20日~2017年3月31日)

発行 / 沼田市役所
〒378-8501 群馬県沼田市西倉内町780
TEL 0278-23-2111 FAX 0278-24-5179
URL http://www.city.numata.gunma.jp

真田氏系譜



1 「沼田城址」(沼田公園(西倉内町594)) P有り

沼田城は天文元年(1532)に沼田氏12代万鬼齋顕泰が築いたもので、当時は蔵内城と呼ばれていた。天正8年(1580)に武田勝頼の武将真田昌幸が入城し、城の規模を広げた。天正18年(1590)に昌幸の長男信幸(之)が沼田領二万七千石の初代城主となり、その後5代91年間の真田氏の居城となる。また、慶長2年(1597)には五層の天守閣を建造し、慶長19年(1614)頃には城下町としての形態がとどつてきた。天和元年(1681)、真田氏5代沼田藩主信利が江戸幕府に領地を没収され、翌年1月に沼田城は幕府の命により完全に破却され、その後天守閣は再建されなかった。その後、本多氏が旧沼田領177カ村のうち46カ村・飛地領を合わせ四万石の藩主として入封し、幕府の貸与金で城を再興したが館御殿造りであった。次いで黒田氏2代、土岐氏12代の居館となったが、明治になって版籍奉還し、館も取り壊された。時を経て本丸・二の丸跡が整備され、現在の沼田公園になった。



櫓台石垣・御殿桜



旧生方家住宅



旧土岐家住宅洋館

2 「平八石」(沼田公園(西倉内町594)) P有り

真田昌幸が沼田平八郎景義の首を実験の後に載せた石と言われている。沼田平八郎景義は、沼田万鬼齋顕泰と側室(金子美濃守の妹)の子であったが、内紛により会津に顕泰とともに落ち延びていた。天正9年(1581)、沼田城奪還のために挙兵し沼田に迫ったが、伯父である金子美濃守に「沼田城を明け渡す」と欺かれ、沼田城内に招き入れられたところを殺害された。亡骸は小沢城址に葬られ、沼田大明神として祀られている。



3 「城鐘」(上州沼田真田丸展(下之町888 グリーンベル21・1階)) P有り

この鐘は、寛永11年(1634)に真田氏2代沼田藩主信吉が铸造させ、沼田城三の丸の楼に掛けて時報に用いた。総高114cm、厚さ6cm、口径67.6cm、全体の型として古式を残し江戸時代初期の代表的なものであり、「この鐘の音は領内領民を安らかにし、領主の長久を祈るもの…」という意味の文が刻まれている。天和元年(1681)に真田氏が改易となったため平等寺の梵鐘になっていたが、その後明治32年頃に旧沼田町役場敷地内に建てられた鐘樓に移され、昭和39年(1964)に市庁舎改築で鐘樓が取り壊されるまで市民に時鐘として親しまれた。昭和58年(1983)まで、沼田公園内に復元された「鐘樓」に吊され時を告げていた。現在は上州沼田真田丸展に展示されている。



城鐘



沼田公園の鐘樓

4 「十一面観音像」・「奉納灯籠」(三光院(柳町392)) P有り

三光院には県指定重要文化財の十一面観音像、真田氏5代沼田藩主信利が奉納したという石灯籠がある。この十一面観音像は、ヒノキ材の寄木造りで六臂の立像。玉眼(水晶はめ込みの眼)。像高187cm。昭和52年に修理を行い、その際に解体したところ、首部の内ぐりの部分に墨書銘が見つかり、彫刻着手は文永7年(1270)9月16日で、彫刻師は快覚、発願者は僧の慶賢であることが分かった。応永13年(1406)に群馬郡国分の村上出羽守なる者が利根に侵入し、沼田氏の支城の川田・名胡桃兩城を攻略した。沼田氏8代景朝は兵を率いて村上を攻め滅ぼしこの観音像を持ち帰り、観音堂を建てて安置し今に伝えられたという。



十一面観音像

また、観音堂前には真田氏5代沼田藩主信利が献納したという石灯籠が2基あり、また観音堂内には信利の夫人が献納したという木彫りの白馬2体がある。



観音堂と奉納灯籠

5 「名胡桃城址」(みなかみ町下津3437) P有り

上杉氏・武田氏・後北条氏は沼田城の争奪を繰り返していたが、天正7年(1579)、武田勝頼の命を受けた真田昌幸が名胡桃城を築き、ここを前戦基地として天正8年(1580)に沼田城を攻略した。天正17年(1589)、昌幸は豊臣秀吉の仲介により沼田城を後北条氏に明け渡したが、沼田城代猪俣邦憲は秀吉が天正15年(1587)に大名間の私戦を禁じた「関東惣無事」を無視して真田領であった名胡桃城を攻略。これがきっかけになり小田原征伐が行われ、後北条氏は滅亡した。現在は堀跡などの遺構が残されており、群馬県指定史跡にもなっている。



6 「戸鹿野八幡宮」(戸鹿野町800) P有り

戸鹿野八幡宮は、沼田城主代々の守護神であった。沼田城主沼田顕泰が享祿3年(1530)8月15日に後関八幡宮を迎えて現在地に祀り城の守護神とした。金山城主由良氏が攻めてきて苦戦した際に、山崎多数が敵陣上空を舞い敵を混乱させて勝利をおさめた地との伝承もある。天正8年(1580)に真田昌幸が出陣に際して祈願して以来、代々武神として崇敬された。現在の神社本殿は万治元年(1658)に建てられたものであり、境内には信州伊那郡上戸村の石工による亀甲積みの石垣や大鳥居をはじめとした多くの石造物がある。



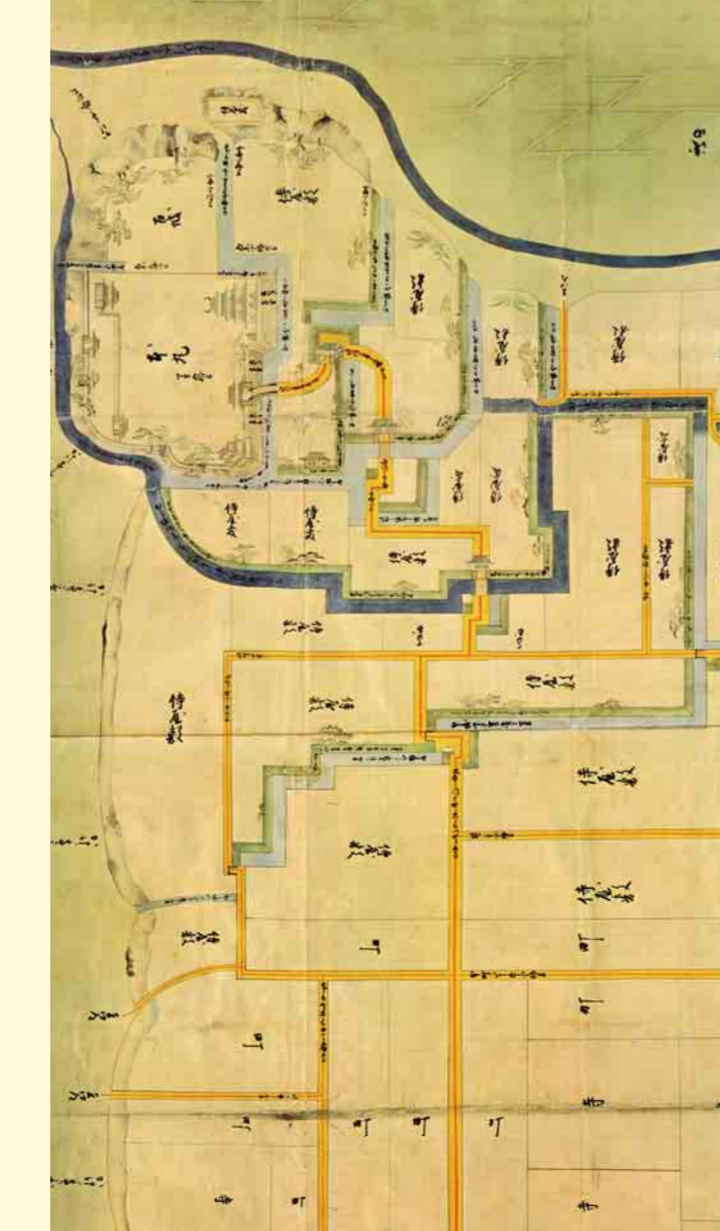
7 「千手観世音菩薩坐像」(歓楽院(柳町390-1)) P無し

歓楽院の千手観世音菩薩坐像は、像体・台座・厨子ともに漆箔の精巧で壯麗な像である。頂上仏・脇手などははぎつてあり、卵形の光背に巧みな技法が見られる。像高76cm。寛文3年(1663)に、真田氏5代沼田藩主信利が沼田城の鬼門除けとして月夜野にあった常楽院法盛寺を幕府城跡に移し、この千手観音を本尊としたことから、「真田観音」と呼ばれた。観音堂内には信利が奉納したと言われる大絵馬も掲げられている。この観音像は、4月29日の観音祭当日のみ拝観することができる。



「沼田城絵図」(国立公文書館内閣文庫所蔵)

沼田城絵図は、正保年間(1644~1647)に幕府が命じて諸藩に作成させた正保城絵図の一つであり、真田氏第4代沼田藩主信政が提出したものである。(原図寸法176cm×234cm) 157点あったとの記録があるが、火災などで失われ、国立公文書館内閣文庫に所蔵されているのは63点にとどまっており、その全てが国の重要文化財に指定されている。なお、群馬県内の城絵図で現存するのは唯一沼田城だけである。



沼田城址発掘調査及び出土遺物

平成9年から13年にかけて、本丸西櫓台の一部とその周辺部において発掘調査が行われた。この調査により、櫓台の東側に石垣及びそれに付属する石段が掘り出された。石段は櫓台の南端に向かう方向に位置している。また、この調査時に臍や鬼瓦などの瓦片、肥前(有田)や瀬戸美濃産の国産陶磁器、景徳鎮などの中国産磁器が出土した。ほかにはすり鉢、焼塩壺、かわらけ等が出土している。この遺構や遺物は、出土の状況から真田氏時代のものであると考えられる。

1 3 出土品の一部は、沼田市観光案内所と上州沼田真田丸展にて展示中。



発掘調査時の西櫓台

陶磁器類

焼塩壺

金箔瓦

軒丸瓦

8 「小沢城跡」(法城院(町田町甲2038ほか)) P有り

小沢城は、沼田氏8代景朝が応永12年(1405)に小沢川の崖端に築いた城である。永正16年(1519)に幕府城へ移るまでの4代114年間の居城であった。東南は小沢川の崖、西北は内外二重に堀を構え追手は北に開き東側の「折」に備防されており、堀・土居等が現在も残されている中世の城跡である。京都相國寺の僧・万里集九の漢詩文集には「長享二年(1488)九月三十日、沼田館に着き鏡屋に宿る」とある。小沢城は沼田館・沼田城とも呼ばれていた。なお、同地には「沼田大明神」として金子美濃守らに謀殺された沼田平八郎景義が祀られている。



9 「海野塚」(岡谷町1116-3) P無し

真田昌幸は、沼田城を天正8年(1580)6月に手中に収め、真田一族の海野能登守輝幸を二の丸、藤田信吉を本丸城代に、金子美濃守を執事に据えた。輝幸の兄の幸光は岩櫃城代であった。この兄弟をわたくむ者の「海野は北条と通ずる」との讒言を信じた昌幸は、弟の信尹に命じてまず幸光を急襲して討ち、ただちに沼田城に入った。輝幸は、「主家に二心無き証をたてん」と迦葉山を目指す途中、岡谷町内にて真田勢に追撃された。輝幸は真田の檢視役田口又左衛門沼田一の豪者木内八右衛門を一刀で討ち、「無益の殺生はこれまで」と嫡男幸貞と刺し違え自刃した。父子をここに葬り、海野塚と称した。



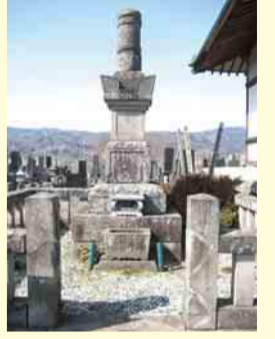
10 「慶寿院殿の墓」(妙光寺(坊新田町1104-1)) P有り

真田氏2代沼田藩主信吉の側室であり、5代藩主信利の母であった慶寿院殿の墓である。寛文7年(1667)に本隆寺を改築して慶寿山妙光寺と寺名を改め、自ら開基となり、寛文9年(1669)5月27日に没した。なお、この寺には、改易により沼田藩に預けとなった加藤清正の孫の加藤藤松正良、正良の母法乗院の墓もある。



11 「大連院殿の墓」(正覚寺(鍛冶町938)) P有り

真田氏初代沼田藩主信幸(之)の正室であった、大連院殿の墓である。大連院は、徳川家康の重臣本多忠勝の娘で名は小松姫といい、家康が養女にして天正17年(1589)に信幸(之)に嫁がせた。慶長5年(1600)の関ヶ原の戦の際には、上田に戻る父昌幸、弟幸村のみが沼田城を訪れたことを不審に思い、入城を拒んだことで女丈夫と噂された。元和6年(1620)に病み、療養のため江戸から草津に来る途中の2月24日に武蔵国鴻巣で没した。48歳。同所で火葬にして分骨し、同所の勝願寺・沼田の正覚寺・上田の芳泉寺にそれぞれ葬られた。



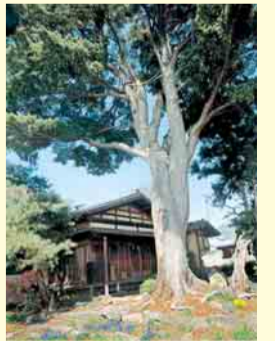
12 「真田河内守信吉の墓」(天桂寺(材木町144)) P有り

真田氏2代沼田藩主であった、信吉の墓である。「天桂院殿前河州太守 月輪淨瑠大居士墓 滋野朝臣真田信吉 寛永十一年甲戌歲十一月念八日」の刻印があり、屋蓋に真田家の紋「六連銭」が刻まれた総丈297cmの宝篋印塔である。信吉は、初代沼田藩主信幸(之)の長男。元和2年(1616)に父信幸(之)が沼田から上田に移ったために2代沼田藩主となったが、寛永11年(1634)11月28日に江戸屋敷で没した。40歳。遺骸は沼田へ送られ、迦葉山で火葬しこの寺に葬られた。



13 「高平の書院」・「書院の五葉マツ」(白沢町高平1305-1) P可

慶安2年(1649)、真田氏4代沼田藩主信政が新田開発・宿割等を行ったおりに設置され、その後は城主の沼田領内見回りや鷹狩りの際の休憩所として利用された。その当時、敷地内には7棟の建物が配置され、書院はその一部と伝えられている。本造平屋造(151㎡)、県内の書院造りとして貴重なものである。建物のすぐ前にそびえる木は、推定樹齢約400年、高さ18m、目通り2.5mの五葉マツであり、書院設置の際に庭木として植樹されたものと伝えられる。また、ここより国道120号線を日光方面に約350m進んだ高平三本辻という場所に、慶安の宿割を記念する古い庚申塔がある。



14 「金子美濃守の墓」(利根町大楊地内) P無し

金子美濃守は、沼田万鬼齋顕泰に仕えた重臣であった。顕泰の側室は金子美濃守の妹で、沼田平八郎景義は甥。顕泰は家督を三男の朝憲に譲り景義とともに天神城に移ったが、景義を沼田氏の後継者にしようとする朝憲で謀殺された。朝憲の妻子・家臣らは朝憲の妻の父である厩橋城代北条高広の加勢を得て天神城を攻め、顕泰と景義は会津に落ち延びた。沼田城は城主不在となり、金子美濃守は上杉氏、北条氏、真田氏に次々と従った。沼田平八郎景義が天正9年(1581)に沼田城奪回のために挙兵したが、真田昌幸から恩賞を約束されて景義を謀殺するよう命じられた金子美濃守は、「沼田城を明け渡す」と景義を欺き城内に招き入れ殺害した。しかし、その後昌幸から遠ざけられ、失意のまま生涯を終えたとのことである。

